

## 平成 30 年度第 1 回 富良野市地域福祉計画市民委員会議事録

日 時 平成 30 年 12 月 6 日（木） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 50 分

場 所 富良野市総合保健センター 会議室

出席者 久田会長、桐澤副会長、佐藤(里)委員、有澤委員 松田委員、山田委員  
南部委員 飯沼委員 （計 8 名）

事務局 若杉保健福祉部長、西尾福祉課長 菅原福祉係長 （計 3 名）

### 1. 開会（15：00～）

（進行：西尾課長）

- ・ただいまより、平成 30 年度 第 1 回富良野市地域福祉計画市民委員会を開会します。開会にあたりまして久田会長より挨拶いただきます。

### 2. 会長挨拶

（久田会長）

- ・お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。
- ・今回は平成 29 年度の事業実績を基に地域福祉計画の進捗状況を点検というか検証をして参りたいと存じます。この時期の開催になって少し遅いような感じがしております。私自身もチェックが甘かったものですから、このような時期の開催ということになりました。申し訳ございませんでした。今日は数々の資料の提示があり、前もって送付して戴いていることから、そういったものを頭におきながらご審議いただきたいと思います。

### 3. 保健福祉部長挨拶

（若杉保健福祉部長）

- ・師走に入り大変お忙しい中この委員会にご出席をいただきましてありがとうございます。本日の会議の主要議題は平成 29 年度の事業推進の検証、進行管理について皆さんにご説明申し上げて審議いただくことになっています。本来であれば上半期に実施したいと考えておりましたがこの時期の開催になった事をお詫び申し上げます。
- ・委員の皆様からも日頃より福祉行政に関わって、それぞれの立場からご協力いただいております。この計画についても皆様からご心配いただきご指導もいただいている中でようやく本日開催できたという状況でございます。今後もいろいろな部分で、ご意見を頂戴しながら富良野市の福祉が、この計画を基に地域福祉の理念を広く市民が共有し、支え合う地域社会というものに向かって参りたいと考えておりますので、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### 4. 協議事項

##### (1) 富良野市地域福祉計画平成29年度進捗状況報告書について

(久田会長)

- ・お手元の資料1の1頁をご覧ください。計画の体系ということで、基本目標が4つに分類されております。基本目標ごとに事務局より説明を受け、ご意見を頂きたいと思っております。
- ・富良野市地域福祉計画平成29年度進捗状況報告書の基本目標1について事務局より説明願います。

(西尾課長)

- ・資料1(2頁～11頁)について説明。

(久田会長)

- ・ただ今説明がありましたが、何か質疑等ございますか？

(南部委員)

- ・7頁の自立相談支援センターの相談件数が増えていますけどどういった内容の相談が増えていますか？

(西尾課長)

- ・個別の内容についてはデータの数値を拾ってみなければお答えできませんが支援内容といたしましては記載させていただいた相談があったということでございます。

(南部委員)

- ・新規相談が39件から52件になったということですね。増えている理由があつてこういうが増えているというような説明ができなかったら説明にならないのでは？

(西尾課長)

- ・今、基礎となる資料が手元になく、個別の相談件数をカウントしていないため、お答えすることはできませんが、必要だということであれば後でまとめましてご報告するという事は可能です。

(南部委員)

- ・わかりました。9頁の富良野圏域社会資源マップと富良野圏域障がい福祉社会資源ガイドの内容は同じなんですか？

(西尾課長)

- ・富良野圏域社会資源マップは A4 が 3 枚連なった三つ折りのマップで、障がい者サービス事業所が掲載されていたものです。既に閉鎖されている事業所が掲載されていたり新規の事業所は記載されておらず、障がい者サービスについても自立支援法から総合支援法に変わった等ということから富良野圏域障がい福祉社会資源ガイドという冊子になったものを新たに作成しております。

(南部委員)

- ・ 11 頁の消費者被害への対応で、携帯スマホの関係が多いと思うんですが、僕がインターネットで見るところによると、説明してくれる人がマニュアルからそれた質問には答えることができないとか、料金自体が説明してくれる人がわかっていっているのか理解できないんです。ちょっと変わった質問をすると一回一回別の部屋に行って聞かないと回答をもらえないんです。わからなくて安くなるって言われて契約している人がいると思うんです。後からこんな話ではなかったっていう苦情がこの数字に入っていると思うんだけどその辺どうなんだろう。こういうのは不当請求ではないよね。

(西尾課長)

- ・あくまでもこの項目は権利擁護の支援ということで、そういったお困りの時の対応ということで相談を受けている件数が記載されています。

(南部委員)

- ・例えば 68 件が 137 件になったら、どういう内容で増えているのか説明しないと、ただ相談に来た人が増えてるっていうだけなら。

(西尾課長)

- ・地域福祉の権利擁護の考え方から言ってこの部分の評価項目といたしましてこういった対応の部分についてはどういった状況かという検証の資料として挙げさせて頂いております。内容につきましては各個別の 137 件の内訳何件ずつという表記をしていないということでございます。

(南部委員)

- ・質問して、どの項目もそうなんだけど今みたいなような答え方だと誰も質問しなくなるよ。

(西尾課長)

- ・地域福祉の権利擁護の考えとしてそちらの内容がどこまで必要かということをご議論頂いてその内容が必要だということであれば後日ご報告させていただくということ

よろしいでしょうか。

(久田会長)

- ・そういうことでよろしいでしょうか。

(南部委員)

- ・いいですよ。

(飯沼委員)

- ・ 8 頁に権利擁護支援体制の整備で権利擁護センターの設立について検討するとありますが、これから検討するの？この話は今から 7, 8 年前に担当部署にいて権利擁護の説明会とか実施させてもらって、その時は動いていたんです。富良野圏域の中で権利擁護については連携してやりましょうよ、当時の南富良野町はものすごく進んでいて成年後見センターをやっていた。上富良野町もやりたい、中富良野町もやりたい、占冠もやりたい。じゃあパワーを結集して広域連合でやろうよという話で進んでいたんです。社協でやっている日常生活自立支援事業のモデル事業としてこの圏域でやって欲しいと本庁から来ていただいて説明を受けた時、広域連携は嫌だと社協が断ったんです。
- ・ そういう経緯があって既にその時から必要だと言われていたはずなのに、検討してまいりますというのはこれから検討するってということでしょ？それじゃちょっと、もうすでに青写真が描かれていないとおかしいというくらい喫緊の課題なんです。これだけ高齢化が進んでいって団塊の世代の人たちが 70 になるのが間もなくです。その時にまだ成年後見センターができていない。社協でやってますよって実績を見たら 1 件。これだけ大変な人が沢山いるのに、のんきすぎるんじゃないかなって思うんです。
- ・ このことに関して関われる人は沢山いるんです富良野市内の中に。僕自身も東大まで行って研修受けてきましたしね。一年間以上通いまして授業を受けて終わりました。富良野市にまだ沢山いるんです。老人の方障害を持っている方もそうですし、いろんな人たちがこの権利擁護ということに関わってくるんです。消費者被害ももちろんそうですし、だからやっぱりこれは本当に急いでやりましょうよ。

(西尾課長)

- ・ 平成 29 年度の評価ですので検討して行きますと書かせていただきました。平成 30 年度については今後に向けて色々考えているところでございます。

(飯沼委員)

- ・送って頂いた資料の中でアンケートをいろいろとっていますよね。住民の皆さんが何に困っていて何に悩んでいるのか、認知症になると困るとか言っているわけでしょう。一人暮らしでどうだろうとか、すごく示唆してくれているじゃないですか何を手厚くすれば良いか。そういう風にやりましょう。

(久田会長)

- ・意見ということでよろしいですか。

(飯沼委員)

- ・意見しかいいようがないじゃないですか。

検証の結果対比してその事業計画がありますよ。事業計画を作りましたよ。検証システムを入れましょうよといったのはなぜかという、こういうことが必要だからです。世の中も変わりますし行政も変わりますよ条例も変わりますよ法律も変わりますよというときに計画は作りました検証もしないで、そのあと五年間も良いんですかということではないでしょう。少なくとも五月くらいに29年度の結果はこうでした30年度はこうしたいと思っているという議論するような形にならなかつたら良くならない。30年度7割くらい終わった時に、さあ30年度はどうしましょうと計画したってあと3ヶ月しかないじゃないですか。それじゃだめだよ。そうじゃなくてやりましょうよどんどん進めて行きましょうよだから行政だけではできないでしょうし民間だけではできないでしょうし、だったら手に手を取り合ってやりましょう。それで何を作るかと言ったらやっぱり住んでいて良かった街を作りましょうということですよ。福祉に携わっている人はそういった心がけの優しい人がものすごく多いんです。

- ・富良野市のおかれている環境はものすごく厳しいですよ。介護の現場でも人がいなくて困っているでしょ。もちろん新しい事業所も建っているけれども。福祉の現場はものすごく大変ですよ。それらも含めてまだ使えるパワーが沢山あるんだからパワーを利用できるような仕組みを作って、実践計画に落とし込んでいかないと駄目だと思います。

ただ、この実践計画を見る限りは地域福祉計画と実践計画はリンクしているはずなんですけど見る限りでは単なる箇条書きでマルついているだけで具体的にどうやって進めて行くのか、あるいは具体的にどんな事業をやっているのか見えないですね。これでは困る。その辺も含めて考えてということですよ。

(久田会長)

- ・他の方ご意見ありませんか。
- ・それでは次の基本目標2について事務局より説明願います。

(西尾課長)

- ・資料1 (12頁~18頁) について説明。

(久田会長)

- ・基本目標2 についてご質問ご意見ございませんか。

(南部委員)

- ・関係あるのかないのか知らないですけど14頁の災害時の避難の話で、実は3日の日に上川振興局で全道的に災害の時にペットを持っている方が、年寄りの方で、ペットを収容する避難所がないものだから避難を拒否するケースが全道的に問題になっている。それで僕は道の動物愛護推進委員というのをやっているんで会議があったんですけど道も今、対策を作るんですけど、犬や猫を飼っている人の責任もかなり問われる。人の集まる場所で吠えたり噛みついたりそういう行為はしないようにして欲しい。排せつは決まったところですよ。ペットの水とかエサは自分で用意してください。とかかなり厳しいような話しでした。次もし計画作るのであれば、できるできない別にして全道的な流れとか全国的な流れはこうですよとか載せておいた方が良いと思います。
- ・今年川が氾濫した高梁市ではペットの避難所はあったそうです。それが全国的にかなり話題になっている。災害の多い町なのでそういった備えがあったのかもしれないけど。現状では犬100匹いたら収容できる条件に合う犬は1%か2%と言われています。何かあった時に急に言われても、あなたの犬は吠えるとか猫うるさいから駄目だよって言われるんじゃないかと普段から言っておくと避難できる人が増えると思います。山部でも避難命令出た時にペットがいるので避難できないといった人がいると聞いていたので。まあ蛇足な話しですが。

(久田会長)

- ・災害時の対応としてきちんと細かくいろいろでてくる課題かなと思います。

(若杉部長)

- ・この部分は名簿と自主防災組織と安全安心メール、いわゆる人の人に対する部分の特に地域福祉計画ということなものですから避難行動要支援者の名簿のまず整理というのをメインにあげているんですよ。これは個人情報もあって同意してもらった人が900人から1,700人に倍増した。その下地には日頃の民生委員さんの活動だとかで、これに登録しておいたらいざというときというふうなお話をさせてもらったりして増えてきている。安全安心メールもそうしたかたちですよ。災害が起こるとその直後には増えるんですよ。だけどそのあとには停滞する自主防災組織の組織数も名簿もメールもそうなんです。
- ・ペットの問題も当然今本体の防災計画では議会からの質問があったり、山部の人から

もお話を聞いています。あくまでも今のところ市の考え方としては同居は無理ですよと、同行避難は別のところで飼い主がきちっと面倒を見てもらって、今食料だとか水のことも出ていましたけど飼い主の責任において日頃のしつけも含めてやってくださいというのが今の考え方として出てきていますので、それは本体でうたいますのでここに乗せるかどうかというのは皆さんで論議してもらえばいいかなと思います。

(南部委員)

- ・増えたのは同意したのが増えたということなんだ。

(若杉部長)

- ・そうなんです。

(南部委員)

- ・なして増えたんだろう。

(若杉部長)

- ・市でつかんでいるのは障がい1級2級とか介護認定4とか5とか自動的に把握できませんが、いわゆるだいたい弱っている状況、歩くのは不自由だけれども介護認定がついていなければ洩れてしまうんですね。そこを拾い上げるのが松田会長のされているところの部分でそうした日頃の中で登録しといてという声掛けもしてもらいながら増えてきている状況です。

(南部委員)

- ・安心安全メールは何人なんだけど何戸って考えていいの？

(若杉部長)

- ・個人です。

(南部委員)

- ・世帯数にしたら少ないよね。

(西尾課長)

- ・一人暮らしの方なら1戸になりますし、四人家族で携帯1台なら4人で見られていることにもなるんですがあくまでも登録されたメールに一齐送信なので登録メール数でしか把握ができないということでもあります。

(若杉部長)

- ・是非登録しておいていただければこの間のブラックアウトの時みたいに水に関するデ

マがずっと流れていて、町内会によっては水が断水するという話もあって、それを打ち消すというのが非常にご苦労されたんですね、地域も市も。メールではそういったこともお知らせできますし、まだ1,700というのはまだ不安な、合わせてFM富良野でもあの時の課題が出ましたので、聴いたら音楽が流れているとか、今後はエンドレスで何時何分発表の情報を流して、情報が更新されたら何時何分の情報ということをしていこうということになっています。FMは今市街地は問題ないし、麓郷は今工事しています。北の峰に発信機をもって市内が網羅される状況にはなっています。

#### (松田委員)

- ・避難行動要支援者名簿ということで数字がでていますが、この5倍くらい対象者はいると思っています。私は桂木町に住んでいますが60何人の対象者がいて市に承諾書を出した人は9人。民生委員がいろいろ歩いてこの方は必要だと思う方と、市が要介護とかの数字で追ったものとは違うと思います。民生委員児童委員協議会で進めている支え合いマップを通じて近所の方同士の助け合いに力を入れています。拾い上げたからどうだということではなくて、誰が誰を助けるかということにおもきを置いていかなければと思います。
- ・数字だけでは何も実践にならないということ把握すべきだなと思いますし、私たちの活動にご協力いただきたいというように思っています。この間も山田事務局長のおかげをもちまして市民の方たちに少しでも防災マップイコール支え合いマップだという認識を持って頂きたいということでお話する機会を頂きました。そういう機会がもっともって増えて行けばいいかなと思っています。それくらい助けが必要なのに認知されていない現状にあるということをお願いいたします。
- ・市から送られてきた避難行動要支援者名簿登録の手紙を読んでいないかもしれないし読んでも理解できていないかもしれません。書類の提出については心理的にシャットアウトしちゃうのかもしれないかもしれません。よく読まないで。私はこんな対象ではないと思っちゃうのかもしれない。

#### (飯沼委員)

- ・こうやって動いてくれる人もいる。自分の担当のケアマネだったら心を開く、訪問看護を受けている人だったら訪問看護師さんに心開く、顔見知りになって心を開いてくれる民生委員さんは別ですけど、そうでなかったら中々承諾しない、騙されているのではないかと思ったりするケースもあって情報がきちっと正しくその人に伝わっているのか理解してもらっているのか、そこで出てくるのは連携しかないんですね。一人ひとり接触して消し込みしていくしかないんですね。多くの人が情報を正しくもらえるような、今回の地震の時だって情報の伝達は極めて富良野市はお粗末だったと思います。うちの町内も水が断水するということになって全員もれなくに近いくらい浴槽に水を張ったとかペットボトルに詰めたとか。けども地下水をくみ上げている



人は他のところからもらったりしていた。それは正しい情報ではなかった。たまたま今回は地震だったけど大きな雨で音がわからなかったとかしてブラックアウトになったら電気が来ない、雨で音が聞こえない、ラジオもってなかったとかいろんなことが想定されるんですよね。それらも含めてたぶん市では議論になっているんですよね。どうすることが皆さんに正しく伝わるかてなことでもいろんな手法でつたえないと、一つの方法では厳しいわけです。助かる命も助からなかったという可能性がある訳で、その辺はみんな手に手を取ってお互いに知恵を出し合いながら汗もかいてもらいながら、松田さんがおっしゃったみたいにその個人の周りの人たちが一番その人の理解が出来ているような状態になって、元気でないハンデキャップのある人たちを元気な周りの人たちが支え合うみたいなそういう仕組みがこの町にできればいいかなと思います。

(松田委員)

- ・ 知るというか知り合うということ。数字どうこうではなくて必要な方に必要な支援を受けるといことは近所でなければわからない。それを支援していただけたらいいかな。
- ・ 通知を受けた方で私たちから見たら絶対支援が必要だからマップに印をつけて開示していかいって聞いたら嫌ってという人はいないです。民協でもケアマネ会議に出席させていただいているんですけど、ケアマネさんと同じ一人に対して同じように関わっていることはスクラムを組んでやっていける。個人情報ケースバイケースで共有できればもっとやりやすくなるんじゃないかなと思います。

(飯沼委員)

- ・ 行政は何かがあった時によって考えるため極めてガードが堅い。以前認知症サポーターの研修をやらうと思って、キャラバンメイトといって認知症サポーターの講習をやれる方を教えてくださって頼んだところそれは個人情報だから教えられないって言われました。それで結局できなくて仕方ないから自分で研修に行って資格を取ってきました。そういう過剰に反応しすぎているんですよ。個人情報保護法を勉強したら決してそんなことはないんです。支援が必要な方に係る人たちがみんな情報を共有して手を組んでサポートしていければ、この街に住んでてよかったと思えるはずですよ。

(松田委員)

- ・ 認知症ほど私は開示して周りが守らなければいけないと思うんです。恥ずかしいことだという意識があるんですが、ご近所の人が目がないと守れないものなんです。その認識が共通の認識になればいいんでしょうけどまだ時間のかかることだと思います。

(飯沼委員)

- ・ そのためにサポーターの講習を小学生の頃からやりたいんです。キャラバンメイトを使

うんなら話の上手な人が良い。話の上手な人を探そうと思って教えて欲しいと言ったら教えられません。9人いるのはわかっていたんです当時ね。そんなことも含めてやっていけばいい形に進んで行ける可能性がありますよね。それぞれいろんな障害を持っている方も皆さんで守ってあげれば通常の生活ができる可能性が少しでも上がる。認知症の方も私は認知症で徘徊するかも知れない。周りに迷惑をかけるかも知れない。そのことを知らなかったら距離を置いてみてしまう。だけどわかっているならば近くでサポートすることができる。是非そういうことはやりたいですよ。

(佐藤委員)

・災害の話が出たのでお尋ねしたいのですが、食糧備蓄って市に無いんですか？

(西尾課長)

・災害用の食糧備蓄はしております。

(佐藤委員)

・この前の地震の時にふれあいセンターが一時避難所になったんですが

(西尾課長)

・その件に関しては誤解されている方が多いのですが、停電により電気がつかなくて不安な方は電気がついているふれあいセンターを開放しましたよというものであります。

(佐藤委員)

・その時に食料と寝具を持っておいでって、避難所では無いんですね。

(西尾課長)

・避難所では無いんです。避難所の開設では無いので食料も寝具等も用意はしていない。電気がついてなくて不安な方が身を寄せる場所を開放しますというものです。

(佐藤委員)

・あの時パンも売り切れだった、弁当もなかった。一人暮らしで食料のない人お年寄りが結構いたんですよ。

(松田委員)

・どこでもその件に関してはバッシングがありました。

(佐藤委員)

・昔、市には食料備蓄が無いと聞いていたので、これを機会にちゃんと用意しておいて人に集まりなさいというところに食べ物がなければいけないと思います。

(南部委員)

- ・食べ物には有効期限があるので古いのを放出して新しいものを購入しても誰も文句言わないと思いますよ。

(飯沼委員)

- ・富良野市の場合アルファ米を少し用意していると聞いています。

(佐藤委員)

- ・私は持ってないと聞いていました。この際用意してもらいたいと思います。福祉の課には関係ないのかもしれないけれど食べるものが無ければ行かないですよ。

(松田委員)

- ・福祉課のある保健センターも 2 日間停電していた。自家発電設備を早急に設置していただきたいと思います。ふれあいセンターへの呼びかけの文書もすぐできなかったということはいろんなところからも言われています。あれは何かやりましたという何かを作りたかったのだと思うんですけど、あれはかえって出さない方がよかったんじゃないかなと思います。

(飯沼委員)

- ・正しい情報が正しく伝わったら混乱はないけれど、間違っって伝わったらだめですから伝え方が難しい。

(松田会長)

- ・この間の民協で災害のあった次の日の 10 時には集まりましょうと決めごとをつくりました。集まることによって今ある段階の情報は共有できるし情報を発信することができるのでそれだけは協議会として考えさせていただいたんです。

(久田会長)

- ・意見のまとめですが、ブラックアウトのような時の情報の伝達手段とか高齢者の避難場所の対応とか食料含めて、自力で避難できない人のために計画の中で記載しても良いのではというようなことでよろしいですか。

(有澤委員)

- ・計画書や進捗状況報告書の中に肝心なことが欠落しているように思うんです。避難所の中で身体的な障がい、認知症、精神や知的障がい者も一羽ひとからげで同じ避難所の同じ部屋で良いのだろうか、これは人権問題にも関わってくる。もっと切実なのは小さなお子さんを持っている家族。夜泣きなどで周りの人に迷惑をかけるような家族は

それなりの場所に、あるいは別の部屋にといった配慮も必要なんじゃないでしょうか。避難するまではいいんですが避難場所でどういった対応をするかというのも考えておかなければならないと思います。

(山田委員)

- ・避難所の運営ということでも全道的にも4.5年前から避難所の運営に関して議論してきました。富良野市はまだそこまで行っていないからそこはきちっとやっていかないと。避難所は設けたよっていても実際に本当に運営できるかということできないと思います。富良野市の場合。その辺はやっぱりきちんと出していく必要があるかな。今回水についての噂も出てきた。富良野市の水道施設の事を考えたら絶対そんなことはありえないって見えるんだけど、情報がそう流れて行って、ふれあいセンターに行って話を聴いたらそんなことが出てますがそんな馬鹿な話はない、そんな必要はない。そんなこともあるんでね。

(久田会長)

- ・私も水が断水しますって聞いて直接市に行ったら富良野市はそういうことは絶対ない、旭川市では一部あるけど富良野市は絶対と言い方をしていました。そういうことは知りませんでした。ブラックアウトのような前代未聞のことが二度とないという保証はないですよ。そういうことがきっかけで議論が進んできた。運営の中身も含めて今後の計画の中に盛り込んでも良いかなと考えます。意見としてそのへんはどうでしょう。

(飯沼委員)

- ・検証するということはそういう効果がでてくることですよね。問題点がでてくるわけですよ。計画を作った時点ではそんなことまで気が付いていなかった。運営していくのも非常に困る。運営管理者をどうするのか検証するとか人材を育てておくのも必要でしょうし避難場所は何か所も増えて行く訳だからそれぞれ運営していかなければならない。そうすると誰かがリーダーになる人が必要だよ。でもそういう知識が無いと駄目とか手法がわかっていないと駄目。当然それは必要だよ。ペットがいる人、障がい者の人たちはどうしたらいい。そうすると避難所が3カ所とか5カ所とかできた時に、この避難所はペット連れて行ったら良いというような周辺の設備をしておくとか、そういう備えが無いのに実際避難してそれはだめだよとなったら、その人の人権を侵害することになる。その辺も含めて今検証してそういう事象がわかったよ。だから来年の計画に入れようよ。そういった人たちを育ててやっていかなければならない。

- ・31年度はそういったこと追加して新しい計画で動こうよとなったら、行政側はそういう研修会を開くとか人材育成をすとか、ネットワークを作るとか、コミセンの建物

の中に発電機とか充電場を作るとかね。そういったところを今整備している途中らしいですけど、そういったところを計画の中に書いて進めて行った方が良くないかなと思います。そうすると安心になるのかな。そういうことの為の検証です。

(久田会長)

- ・現状としてこういった問題があるといった部分を整理して市の方で課題提起を生かした今後の計画に生かして頂ければありがたいなと考えます。

(若杉部長)

- ・あくまで介護保険、健康を網羅した総合的な福祉分野の最上位の計画ということなものですから、災害の関係でいけば安全な避難場所の確保、災害対策の強化、これは方針としては良いと思うんです。今のペットの同行の問題、避難者の高齢者とか子供、山部でもみんな体育館に入れましたから、人によっては過ごしづらい、うるさい、情報がない、いろんな課題が出ています。そうしたところは富良野市防災計画本体に反映してもらおう。そのためにここで出た意見を私どもで所管に伝えて行く。本体の計画に反映されなければ意味がないですからそこで修正する。こちらの方は文言は変わらないかもしれませんが結果をこちらの会議で事務局から報告する。そんな流れで行かないと、すべてここに網羅していかなければならなくなりますので、今あった避難所の関係、ペットの話、もろもろありましたが今日の会議の意見としてそれぞれの担当の方に申し伝えるその結果を来年報告させていただきます。

(松田委員)

- ・実際に被災したところの具体例をお話いただけるような講演会を複数もって頂きたいと思います。そういったお話を聞く人がいっぱいいると、避難所で急にはそういった対応はできないので、集まった中からいろんな気づきが出てきて少しでも知識がある方がいれば役立つことができると思います。アレルギーを持ったお子さんが増えていてただ食事を提供すれば良いというものではないとか、お話を聞いて初めて気づくことがいっぱいあります。
- ・講演で聞いた話なんですけど、ある避難所で段ボールベッドが必要な方が17人いました。でも15個しかありませんでした。そうするとそれを出すなということが本当に起こるそうです。使える人だけ出したらいいんじゃないかと思うんですけどそういうことが実際起こってくるという話を聞いた時に、使える分だけ出せばいいんじゃないかという意見が多ければ良いのに、指示する人がそういう指示をしてしまうとそこで終わりになるんです。そういったこともあるので是非研修会を開催してください。

(久田会長)

- ・基本目標3の方に行ってよろしいでしょうか。事務局お願いします。

(西尾課長)

- ・資料1(19頁~26頁)について説明。

(飯沼委員)

- ・福祉を担う人材の育成ということで、富良野市はかなり厳しい環境にありますよね、介護職員も含めて、どうしたらいいでしょう。人が足りなくて、足りなくてという現場の声が聞こえてきますし、実際関連の職員の皆さんにお話を伺っています。これから益々対象になる人は増えて行きますよね。地域の中で支えるネットワークは構築できてないし、行き場がなくなったらそこで倒れるだけっていうくらいの暗いニュースだと思うんですよ。これだけ不足しているということは介護や福祉の現場で少しでもマンパワーを貸してもらう手法を考えていかないとなりません。ボランティアの方、子育て支援から高齢者福祉まで含めて接点があるんですが、そういった話が聞こえてきます。子育て支援では元気な高齢者のパワーを借りようとなってますが、介護の現場では人がいないから正職でやろうという方向をとっているところ、あるいは新しくできるホテルのベッドメイクは時給1,000円とか1,500円で雇用するという話も聞こえてくるし、そうすると今福祉で働く人のコストを底上げするとか、私たちを含めて真剣に考えないとパンクしてしまう気がします。皆さん逃げて行くよこの街から。それくらいの課題だと思うんです。いい知恵ないですか。

- ・例えば元気な高齢者は町内にも沢山いるんです。そういう人たちは週3回くらい1時間でも2時間でも働けますよ。子育て支援の部分ではファミリーサポートの中で高齢者が子供たちに関わることで間違いなくニコニコします。精神衛生上も非常に良くて肉体的にも元気になる。そういう皆さんのパワーをお借りできないかな、そんな仕組みを作りたい。そうもしないと絶対量が無いわけですから、需要はあるよでも供給はありませんよという世界ですからね。時間とパワーがある人がいますよ。でもすることが無い人がいますよ。そういう人たちに活躍してもらいましょう。そういう仕組みを何とか作れないかな。ただ、人と接することですから色々対人関係とかコミュニケーションの取り方なんか得意ではない人たちもいるかもしれないので、そういう人たちの基礎研修とかコミュニケーションワークショップとかで行政側も人材を育成していくのも一つの手なのかな。それが100点にはならないかもしれないけど50点でも70点でも何もしないよりは良いのかなと思っています。夢物語かもしれませんが現実として足りない訳です。大変なことなんです。施設を作ったとしてもベッドはありますよけどサポートしてくれる人はいませんよというのが現実なわけです。

(有澤委員)

- ・介護難民とは言わなくても富良野でそれぞれの施設で待機している人の数ってわかるの？

(若杉部長)

- ・今ですね特養関係で聞いている話だと、順番がきてお話をかけると、まだ入らないとか昔のようにいつまでも待っているという状況ではありません。昔は特養しかありませんでしたがグループホームなど施設も増えています。ただ、人材いわゆるサービスを提供するプロ、事業所としての人材はものすごく不足しています。全国的にもそうですし、だから外国人がという話になっています。富良野市の介護事業所も連絡会を立ち上げようという話が道新に出たと思います。老健さんもかわむらメディカルさんも本当はこれだけ入所できるんだけど提供する人材がないので、老健で行けば100床のところ75床で抑えている。そのことによって若干待機もでてくる。非常に厳しい状況です。
- ・だからこそ今後ますます自分の健康は自分で守る。社会参加、いわゆる地域福祉のために支え合うみたいな、それは子育てから高齢者含めてそういう社会づくりというのが行政のすごく重たい課題ですがやらなければならないということは重々承知しております。

(南部委員)

- ・関連してなんだけど、ふまねっとや認知症サポーターの養成講座をやるんですけど、ふまねっとについてはスキルアップとか自主練習で研修しているんだけど、認知症サポーターは講習会のあと何もないんだよね。オレンジリングつけて歩いている人は見たことがない。それと、北広島とか苫小牧でボランティアのポイント制みたいのがあるって、富良野は考えていないって前の部長に一蹴されたんだけど。

(若杉部長)

- ・今回の議会質問にも健康づくりポイントと福祉のボランティアポイントについて出ています。市で考えているのは、健康づくりは国も道も推奨していて、道は今年で終わるんですが健康づくりは引き続き市でやっていこうと考えています。それは国民健康保険の特定検診で保険者が努力していかないと国からの負担金が減ってくるんです。そこに健康マイレージとかポイント制が入っているんです。いわゆる市民が取り組むインセンティブ、やる気。何か動機になるようなポイント、景品を与えてやっていこうと考えています。
- ・ボランティアの方は社協やボランティアの会とかボランティアをしている方の意見をいろいろ聴いてから。国も旗を振りはじめているようですが3割を切った実施率のよ

うです。慎重に意見交換をした中でもう少し先に判断をして行くことになるのかなと  
考えています。

(南部委員)

- ・次の計画に備えるには将来に向けての話も大事になると思います。

(西尾課長)

- ・次の計画の策定のためにご意見をいただき、様々な法律の改正とかがありますので、  
そういった部分の見直しを含めて、ここでいただいたご意見は今後の計画に活かして  
参ります。

(飯沼委員)

- ・ポイント制については平成 15 年か 14 年に奈良県でものすごく良いボランティアのシ  
ステムがあって、パソコン一台あれば管理できるよと。地域のボランティア銀行立ち  
上げようかという話があって、場所貸してくれと言ったら社協で貸さないって言われ  
てそれでポシャっちゃって、市ではそれはすごい良いことだといって企画課でパソコ  
ン一台用意してくれたんです情報管理するのに。結局ボランティアをやって自分の足  
跡が残っている。蓄積がもし毎日これだけやりましたよって。それは有償ボランティ  
アに近いんじゃないかと円じゃなくてそのパワーを預けましたよ、そのパワーを例え  
ば孫がボランティアしたら、じいちゃんやばあちゃんが使えよ。そんな仕組みを作ろ  
うと結構その時は盛り上がっていたんですよ。
- ・国でもそんな方向を言い出したというのであれば環境的にはすごくやりやすくなっ  
てきたのかも知れないな。それは真剣になって考えてみてこの街独自のそういうもの  
があって、眠っているパワーを引き出すことになるかも知れないし、良いことだと思  
います。

(若杉部長)

- ・やるのであれば健康ポイントは健康増進のためですけど、街づくりボランティア  
ポイントみたいなかたちで福祉であったり健康であったり子育て支援であったり買  
物支援であったり交通などそういう部分で相対的なものを対象にしないと。

(飯沼委員)

- ・それがもし実現すればこの街独自のスタイルになったりして。

(若杉部長)

- ・健康づくりポイントは国で、国保に関して財政的な影響もあるからやらなければなら  
ないということでもあります。



(飯沼委員)

- ・富良野市としてはそれを広げて行くという考えもありますね。

(南部委員)

- ・厚生労働省や道で流れてきたのをちょっと直してそれを富良野市でやってるだけで、新しく取り組んでいることはほとんどないんだわ。それではだめだと思う。皮肉に聞かないで欲しいんだけど、富良野市の職員の待遇というのは全道でベスト 10 に入るくらい良いんだわ。はっきり言って。それなら市民サービスもベスト 10 に入るくらいやってもらわんと。老人から子ども含めてね。

(久田会長)

- ・福祉の担い手不足について具体的に官民含めて知恵を出し合ってやっていただきたいということですね。

(久田会長)

- ・では次の基本目標 4 について事務局より説明願います。

(西尾課長)

- ・資料 1 (27 頁～28 頁) について説明。

(久田会長)

- ・それでは皆さんの方からご意見よろしくお願いします。

(南部委員)

- ・公園の整備 29 年度該当なしとありますが、結構整備しているように見えるんですが。

(西尾課長)

- ・公園の補修などについてはちょいちょいやっていて、道路もそのような形でやっているんですけど、バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進という項目で建築の計画に載っている整備については平成 27 年に終了しているということで平成 28 年まではやり残したところをやっていたということです。平成 29 年度についてはその計画に基づいた整備は行っていないということです。

(南部委員)

- ・市で開催する健康講座とか健康教室等に良く参加するんですけど、8 割 9 割参加者は女性なんです。参加者が女性何割、男性何割って出してくれると討議しやすいんだよね。病院に行くと男性も女性も患者の数は変わらないんです。そういうのを分析する

のも次に生かすような方法を考えても良いと思うね。

(飯沼委員)

- ・男性がボランティアとかに積極的に参加してもらえれば、65歳以上の人口の45%くらいは男のハズなんです。そういう人たちの力を借りることができれば、その人たちを働かせるにはどうしたら良いか。これをあみ出したらノーベル賞ものらしいですが。

(松田委員)

- ・男性の方というのはプライドがおありなんだと思います。ふまねっとの西地区はかなり来ていただいている。ひとり男性がいればチームの盛り上がりがある。やってて楽しむあり方を感じていただければ。先ほどのポイント制というのは非常に有効だと思います。登別で取り組まれているようなんですが子供でもシールを集めてうれしいとかあると思うんです。大人になったら手をつないだりするのは恥ずかしいと思うんですが年齢関係なく楽しいものは楽しい。ポイント制についてはそれに結びつくものがあるんじゃないかなって感じています。ボランティアも無償ではやってられない。
- ・登別なんかはポイントが商店街に通じて何ポイントでこれと交換できるよといった仕組みが作られていて、生活に直結するし、それが励みになる。それが輪を広げて行けば男性だから、女性だからという意識はなくなるのではないかなってというような、男性の方もかなり多くの方が参加していらっしゃるといことがあるので、是非富良野市でもそのような形で対策といいますか仕組みができればいいなと思います。
- ・北広島だったかな、どこかでポイント制にして2,000人以上のボランティアを集めることができたと聞いていますし、ふまねっとも車代を少し出すことで参加者は増えます。皆さん収入があって自分のためにやっている。プラスアルファそれができる資金があればもっともっと活動できるという良い循環が生まれると思います。

(飯沼委員)

- ・15年前に始めようとした時にも交換できるものは円でなくて別な価値にしようと、ボランティアは価値の移動ですよとしました。

(南部委員)

- ・前の計画の時に北広島とか苫小牧の資料を持ってきて提出したんです。だけど事務局に一蹴された。ポイント制の話で。

(久田会長)

- ・集客方法について課題がある。有効性について認識して欲しいということですね。

(飯沼委員)

- ・振り込み詐欺とか消費者被害の相談が増えてきている中で、消費者センターが高齢化が進んでいて体制を縮小するかも知れないとチラッと聞いたのですが。そうであれば他のシステムがこの街に必要。今まで消費者センターにおまかせしていた部分をどこかが担わないと。高齢者は間違いなく増えているわけだし認知症の人も増える可能性がある。消費者被害がこの街でどんどん起きるとなったら困りますね。その辺も含めて大きな課題。消費者センターがどんな形になるかわからないけど、対応がしきれなくなっていると聞いています。

(佐藤委員)

- ・来年度から消費者センターの相談業務は市の方に移ります。

(飯沼委員)

- ・そうであれば体制や人員含めて体制を整えておかないと今までのようなフットワーク良く対応することができなくなりますね。敷居が低くなってもらわないと困る。

(南部委員)

- ・消費者協会は情報をもっと伝えて欲しい。この前、富良野と旭川のガソリンの値段が10円違いました。高いとか安いとか問題にするのではなくて、富良野の最高は何円、最低は何円ですよ。富良野近辺の町の値段はいくらとか知りたいんですよ。灯油、ガソリン、生活必需品は。そうやるほうが若い人なんかは消費者協会に関心を持つと思うんだよね。今みたくオレオレ詐欺とか警察の分野みたいなのが熱心で。

(佐藤委員)

- ・それだけ被害額が大きいということなんですよ。私が最初に消費者協会に入った時は食べる物の中に悪い添加物が入っていないかとかということに一生懸命だったんです。詐欺何て言う言葉も想像できなかったんですけど段々時代も変わって、詐欺に会う人が増えて行って相談業務に力が入っていつているみたいです。でも責任が重すぎるというか法律が絡んできて、相談を受けている人もお年寄りじゃなくて若い人なんですよ。そこについてあんまり責任を負いきれないということでその人たちが辞めることになり、来年度から相談業務は市にお願いすることになったんです。単に高齢化だけじゃないんです。法律がからんですごく難しいということです。

(久田会長)

- ・福祉の環境づくりという観点で消費者被害から守るご意見をいただきました。その他ありませんか。なければ基本目標4の検証を終わります。

(西尾課長)

- ・長時間に渡りまして様々なご意見ご議論いただきまして誠にありがとうございました。各委員からいただきましたご意見等再度事務局の方でまとめまして、足りない部分については再度調べなおして文書になろうかと思いますが送らせていただこうと考えております。

(南部委員)

- ・この委員会は次回やる予定はないんですか。

(西尾課長)

- ・今年度については予定していません。この市民委員会につきましては計画に対する年度の検証を念頭において開催させていただいております。

(南部委員)

- ・今回残った問題についてもう一回開いてやったらいいんでないの文書で配るよりも。

(西尾課長)

- ・今回提案できなかった部分としましては相談件数の内訳がなかったということで知りたいとかその部分については調べてどういった内訳だったのかご報告させていただきたいと思います。そのためにもう一度開いてこの場で報告ということではなく文書でさせていただければと思っております。
- ・本日は長時間に渡りご議論いただきまして誠にありがとうございました。

閉会 17時50分